

型よりやや多く、M₂型は中毒症の強いもの程著明に現れる様だが更に例数を追加検討したい。腎摘の既往を持つ中毒症の残腎患者の分娩前後2回にR.I.R.の観察も試みた。

153. 婦人性器腫瘍の電子顕微鏡的研究 第8報 原発性卵管癌の微細構造

(札幌医大癌研究所)

橋本正淑, 香坂三男, 下山利雄

平沢 峻, 小森昭人, 明石勝英

開腹時両側卵管部に相当し、腸詰様腫瘍を認め、その部分より十数個の小組織片を剔出、直ちにオスミウム酸固定、合成樹脂包埋を行なった。本腫瘍は術後剔出物の詳細な組織検査により原発性卵管癌と診断された。腫瘍組織は乳頭性管状発育を示し、核の異型性はかなり強く、核細胞質比は大で、核分裂像が多数見られる。電顕的観察に於ては、腫瘍細胞の配列はかなり不規則であるが、細胞膜は比較的平滑で、適当な間隔をもつて desmosome が見られる。細胞遊離縁に不規則な太く短い microvilli を認めるが、その数は少ない。核は細胞質に比して著しく大きく、核質は粗で、且つ所々に不規則に凝集する。核仁は糸球状を呈して強く増大するものが多い。細胞質内 RNP 顆粒の分散は粗である為、細胞質は比較的明るい。小胞体は一般に微細小胞或は中等度小胞状を呈し、Golgi 野は概して発達が悪い。糸粒体は甚だしく大小不同を示し、その形態も極めて複雑である。Criste mitochondriales も複雑な配列を示す。遊離縁に近く繊毛基底小体と思われる構造を有する細胞を見出すことが出来るが、通常の卵管繊毛細胞の如き多数の繊毛構造を有する細胞は認めず、又分泌顆粒を含む細胞も見出し得なかつた。

以上の原発性卵管癌の微細構造を、胎児、成熟婦人各性周期、妊娠期及び老年婦人の卵管上皮の電子顕微鏡所見と比較検討し報告する。

154. 所謂卵巣の Clear Cell Adenocarcinoma に関する研究

(慈恵大) 樋口一成, 加藤 俊, 小林重高

腎腫瘍に於ては Grawitz が腎実質内副腎迷芽として推定し、Hypernephroma と命名した腫瘍(所謂 Grawitz の Tumor) は其の後の形態学並びに内分泌学の進歩に伴つて、clear cell adenocarcinoma 即ち腎癌なる事が明かとなつた。卵巣腫瘍に於ても此の問題と並行して所謂 Embryonal carcinoma, Mesonephroma, Hypernephroid tumor, adenocarcinoma with clear cell (Saphir, Lackner, 1944) 等が屡々混同、或は一括論

義されるに至っている。

依つて演者等も此等の点に注目し、従来不分明とされていた卵巣腫瘍中より Embryonal carcinoma, Hypernephroid tumor 等を分離、その概念を求めて来た。

然し Embryonal carcinoma はその Somatic な differentiation の傾向よりして Nephroid tumor とは明らかに分離されねばならぬし、又 Hypernephroid tumor も形態学的並びに内分泌学的に独立腫瘍として取扱うべき事は既に斯界に報告して来た通りである。

従つて現在残されている問題は、所謂 Clear cell adenocarcinoma が臨床的並びに病理学的に如何なるものなのかと云う点にある。

演者等は此等を究明する目的で教室蒐集卵巣腫瘍中、従来単純性の卵巣癌或は不明の癌とされていた症例中で、本論に該当すると考えられた腫瘍6例を臨床的並びに病理組織学的に追求、更に腎の所謂 Clear cell carcinoma と比較検討し、些か興味ある知見を得たので此れを報告したい。

155. 卵巣悪性腫瘍の手術療法

(京大) 西村敏雄, 岡本吉成

卵巣に発生する悪性腫瘍の手術療法として、従来は主として両側卵巣摘除術及び子宮の単純全摘出術が行われて来たようであるが、我々は最近において卵巣に発生した悪性腫瘍が骨盤腔内に広く侵潤或いは転移している例に対して卵巣腫瘍の摘除は、勿論のこと広汎性子宮全摘除、S字状結腸或いは直腸の切除(人口肛門の設置)を行い、その際骨盤リンパ腺の徹底的除去には特に意を用い、又抗癌剤も適宜併用、とにかく一時的には積極的な手術療法によりかなりの成果をあげ得たので、その数例につき報告する。

156. 絨腫に対するアメトプテリンの使用経験

(日赤中央) 野末源一, 御園生義良

新谷昇治, 高原一郎

葉酸拮抗剤 Amethopterin が胎芽組織の葉酸代謝に拮抗作用を及ぼすことから、近年絨毛上皮腫の化学療法剤として使用され、その効果が認められている。Methotrexate は 4-Amino-N¹⁰-Methylpteroyl glutamic acid の構造式をもつその1種で、私共は今迄に4例に応用したので、ここにその成績を報告する。

症例1. 48才、肺転移、Friedmann 反応 500単位陽性。単純子宮全摘除後80mg経口投与により反応陰性化した。その後他の原因で死亡、病理解剖の結果病巣は退